

新規事業採択時評価結果（平成25年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業の概要

事業名	一般国道7号 朝日温海道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北・北陸地方整備局
起終点	自：新潟県村上市川端 至：山形県鶴岡市大岩川	延長	40.8 km		
事業概要	朝日温海道路は、日本海沿岸東北自動車道の一部を構成する道路で、新潟県村上市川端から山形県鶴岡市大岩川に至る延長40.8 kmの自動車専用道路である。（日本海沿岸東北自動車道は、新潟県新潟市から青森県青森市に至る延長約322 kmの高規格幹線道路であり、これまでに204 kmが供用している。）				
事業の目的、必要性	当該道路の整備により、災害時における広域的な緊急物資輸送のリダンダンシーの確保、救急医療施設までの搬送時間の短縮、並びに安定的な物流ルートの確保に資する道路ネットワークの強化を図る。				
全体事業費	約1,900億円	計画交通量	約11,400台/日		
事業概要図	<p>一般国道7号 朝日温海道路</p> <p>凡例 —— 供用中区間 事業中区間 ■■■■ 対象区間</p>				

関係する地方公共団体等の意見	<p>【山形県知事】 予算化に同意する。災害時における緊急輸送道路として役割を担うとともに、物流、産業の振興、地域の再生を担う路線であることから、一日でも早く整備されるよう、着実な予算の確保をお願いする。</p> <p>【新潟県知事】 予算化に同意する。「命の道」としての救急医療施設への搬送時間短縮や災害の代替機能の強化とともに、東北地方の復興を図るため大変重要。本道路の早期着工と一日も早い開通に向けて特段の配慮をお願いする。</p>
----------------	---

学識経験者等の第三者委員会の意見	<p>・新規事業化については妥当である。</p>
------------------	--------------------------

事業採択の前提条件	<p>■費用対便益：便益が費用を上回っている。</p> <p>■手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H24.1.30） 都市計画決定手続き完了（山形県：H24.12.25、新潟県：H25.1.18）</p>
-----------	--

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用：1,536億円 事業費：1,391億円 維持管理費：145億円	総便益：2,075億円 走行時間短縮便益：1,501億円 走行費用減少便益：442億円 交通事故減少便益：132億円	基準年 平成24年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2 (交通量 -10%)	B/C=1.6 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.2 (事業費 +10%)	B/C=1.5 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間 +20%)	B/C=1.4 (事業期間 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	注目すべき影響はない。		
		事故対策	○	国道7号の交通が当該道路へ転換することにより、現道の事故の減少が見込まれる。 ・死傷事故率の高い区間（100件/億台キロ以上） 【現況】6箇所 ※当該区間に並行する一般国道7号の死傷事故率		
		歩行空間	○	国道7号の交通が当該道路へ転換することにより、現道の歩行者の安全性が向上する。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	第三次救急医療施設への速達性の向上及び、安静搬送経路の確保。 ・村上市、鶴岡市の第三次救急医療施設60分圏域外人口 【現況】約1.3万人 ⇒ 【整備後】約0.9万人（約4,000人減少） ・現道問題箇所の回避による安静搬送 【現況】線形不良箇所11箇所 ⇒ 【整備後】回避		
		地域経済	○	太平洋側との相互補完が可能かつ安定的な物流ルートの確保。（*事業中区間の効果を含む） ・大阪～青森間の所要時間 【太平洋側ルート】14.0時間 ⇒ 【日本海側ルート（整備後）】12.8時間		
		災害	○	現道の通行止め区間が回避されるとともに、日本海側に災害に強いネットワークが形成されることで太平洋側ルートと相互補完が可能となり、広域的な緊急物資輸送のリダンダンシーが確保できる。（*事業中区間の効果を含む）		
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	○	日本海側の拠点都市間や国際海上コンテナ港（新潟港・秋田港）、リサイクル貨物港（酒田港）などの拠点港間を連絡し、地域間交流の支援や港湾間の連携を強化する。			
事業実施環境	○	整備に対する要望が強い。				

採択の理由

費用便益比が1.4と便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
また、災害時における緊急輸送道路の代替性の確保、第三次救急医療施設への速達性の向上が図られるほか、高速ネットワークの形成により新潟県と山形県との地域間交流・連携の促進に寄与する等、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業を平成25年度予算要求の新規事業箇所として要求する。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

平成25年度予算要求に係る新規事業採択時評価(防災機能の評価)

担 当 課:道路局 国道・防災課
担当課長名:三浦 真紀

1. 事業の概要

事業名	一般国道7号 朝日温海道路	事業区分	一般国道	事業主体	東北・北陸地方整備局
起終点	新潟県村上市川端 ～山形県鶴岡市大岩川	延長	40.8km		
事業概要 目的	・朝日温海道路、日本海沿岸東北自動車道の一部を構成する道路で、新潟県村上市川端から山形県鶴岡市大岩川に至る延長約40.8kmの自動車専用道路である。 ・当該道路の整備により、災害時における広域的な緊急物資輸送のリダンダンシーの確保、救急医療施設までの搬送時間の短縮、並びに安定的な物流ルートの確保に資する道路ネットワークの強化を図る。				
事業費	約1,900億円	3便益B/C	1.4		

2. 必要性の評価

(1) 課題の整理

評価項目	当該事業地域の課題・上位計画等		評価
防災・災害時の救助活動等	・国道7号では、越波や土砂崩れ等の災害や交通事故による通行止めが過去10年間(H14～H23)で30回発生。 ・新潟県と山形県境界部では、縦断する主要幹線道路は国道7号しか存在しない。	※高速道路のあり方検討有識者委員会・緊急提言 「広域的な幹線道路ネットワークについては、地域の孤立化や多重性の欠如など災害面からの弱点を再点検し、その克服に向けて、ミッシングリンクの解消や隘路区間の改良など効果的な手法を選択し、緊急性の高い箇所から重点的に強化を行う必要がある。」 ※東北圏広域地方計画(H21.8) 「緊急輸送道路の強化、格子状骨格道路ネットワーク整備、代替性(リダンダンシー)のある道路交通網の整備を推進する。」 ※新潟県「夢おこし」政策プラン(H21.12) 「中越地震や中越沖地震で再認識した大災害時における代替機能の確立と、県北地域の救急医療の前提となり、「命をつなぐ高速道路」の役割を果たす日本海沿岸東北自動車道をはじめとした、規格の高い道路ネットワークの整備を推進する。」 ※第3次山形県総合発展計画(H25.3) 「東日本大震災により被害を受けた太平洋側の代替路線として日本海側の高速交通路線が重要な役割を果たしたことから、格子状ネットワークの形成による災害に強い高速交通網の早期整備に向け、国などへの要望活動などの取組みを推進する。」	◎
住民生活	・村上市、鶴岡市には、第三次救急医療施設に60分で到着できない地域が広く分布。 ・全人口約20.5万人のうち、第三次救急医療施設への60分圏域外人口が1.3万人存在。	※東北圏広域地方計画(H21.8) 「東北圏は、第三次救急医療機関の60分到達圏から外れる地域が多く、救急対応の向上には、地域の医療機関による連携とアクセス整備を行う必要がある。このため、情報通信技術を活用した広域災害救急医療情報等ネットワークや格子状骨格道路ネットワークの整備等を推進する。」 ※新潟県「夢おこし」政策プラン(H21.12) 「中越地震や中越沖地震で再認識した大災害時における代替機能の確立と、県北地域の救急医療の前提となり、「命をつなぐ高速道路」の役割を果たす日本海沿岸東北自動車道をはじめとした、規格の高い道路ネットワークの整備を推進する。」	◎
地域社会 地域経済	・国道7号の通行止め時には、大きな時間ロスが生じることから、物流企業等は物資輸送に不安を抱えている。	※東北圏広域地方計画(H21.8) 「距離・峠・雪を克服し、圏域の産業活動の動脈となるサービス水準の高い格子状道路ネットワークの整備を推進する。」 ※第3次山形県総合発展計画(H25.3) 「東日本大震災を踏まえ、人、モノの輸送基盤(自動車輸送、鉄道輸送、航空輸送、船舶輸送)については、リダンダンシー(代替性)機能を確保するとともに、高速安定化などのさらなる機能強化を図る。」	○
その他	—		

(2) 事業の必要性

・越波や土砂崩れ等の災害時における広域的な緊急物資輸送のリダンダンシーの確保、救急医療施設までの搬送時間の短縮や安定的な物流ルートの確保といった様々な課題に対応するため、事業の必要性があるものと評価する。

3. 有効性の評価

(1) ネットワーク上のリンクとしての評価

①主要都市・拠点間の防災機能の向上					
区間	リンクの評価		効果	評価	
	現状(整備前)	(目標)整備後			
鶴岡市 (主要な都市)	村上市 (主要な都市)	D	(B) B	・現道は豪雨時の落石等により寸断される可能性から、地域の孤立化を招く恐れがあり、近傍の迂回路も脆弱であり、災害危険性が高い(Dランク)。 ・津波浸水地域を避けて計画されている本道路は、鶴岡市以南～村上市以北間の最短時間経路となり、津波被害が想定されないことから、当該リンクの災害危険性の低いBランクに改善され、地域の孤立も解消。	◎
②ネットワーク全体の防災機能の向上					
リンクの評価			効果	評価	
弱点度(整備前)	弱点度(整備後)	改善度			
20.6	0.7	27.7	当該リンクの整備により、鶴岡市から新潟市間の災害時の迂回が解消することにより、ネットワーク全体の防災機能向上。	◎	

(2) 当該事業としての評価

評価項目	事業による効果	評価
防災・災害時の救助活動等	・国道7号が通行止めとなった場合においても、災害に強いネットワークが確保されるとともに、太平洋側ルートと相互補完が可能となり、広域的な緊急物資輸送のリダンダンシーが確保できる。	○
住民生活	・第三次救急医療施設(新発田市・酒田市)までの搬送時間の短縮と安静搬送による患者への負担軽減が期待される。 村上市、鶴岡市の第三次救急医療施設への60分圏域外人口:約1.3万人→約0.9万人(約0.4万人減少)	◎
地域経済 地域社会	・安定的な物流ルートが確保されるとともに、日本海側拠点都市間や国際海上コンテナ港(新潟港、秋田港)、リサイクル貨物港(酒田港)等の拠点港間を連絡し、交流を支援する。	○
その他	—	

(3) 事業の有効性

・当該事業の実施により、ネットワーク上のリンクの評価がDランク→Bランクに改善するとともに、災害時の迂回が解消することによりネットワーク全体の防災機能が強化される。
 ・また、本事業において、災害に強いネットワークが確保されるとともに、速達性の向上による救急搬送の改善や産業拠点間の連携が強化されるなど、有効性の高い事業と評価する。

4. 事業実施環境・第三者意見

事業実施環境	・平成25年1月までに都市計画決定済みである。 ・山形県や新潟県をはじめ関係市町は、「命の道」として当該区間の早期事業着手を要望している。
山形県	「当該道路が一日でも早く整備されるよう、着実な予算の確保をお願いいたします。」との意見を頂いた。
新潟県	「本道路の早期着工と1日も早い開通に向け、特段のご配慮をお願いいたします。」との意見を頂いた。
社会資本整備審議会 道路分科会 事業評価部会	「新規事業化については妥当である。」との意見を頂いた。
社会資本整備審議会 地方小委員会	「新規事業化については妥当である。」との意見を頂いた。 「当該道路の周辺地域は、脆弱な道路ネットワークしかないので、災害、事故、救急面でリスクを抱えており、当該道路を整備することは重要」、「国際競争力を高めるため、当該道路により、新潟港・酒田港・秋田港を連絡する道路ネットワークを構築することが重要」、「日本海沿岸東北自動車道の遊佐～象潟と合わせ、未事業化区間が整備されることは重要」、「広域的なネットワークを構築することにより、観光振興の観点でも効果が見込まれる」、「耐災害性を高めた道路を早急に整備することが望まれる」との意見を頂いた。

5. 対応方針

・当該事業により、村上市～鶴岡市間における幹線道路の信頼性や到達性が向上することや、緊急輸送等の円滑化が可能となること、さらに安定的な物流ルートの確保や産業拠点間の連携、貢献等が認められることから、防災機能の評価を踏まえ、当該事業の必要性・有効性は高いと判断できる。
以上より、本事業を平成25年度予算要求の新規事業箇所として要求する。